

本研究の狙い

エジプト・アラブ共和国の上エジプト地方では聖者を祝う祭りに際して、ナップートと呼ばれる伝統的なスポーツが行われる。本研究はこのナップートの競技を通して、当該地域の人々が如何に地域固有のアイデンティティを確立し、またそれを維持し・再生産してゆくのかを考察する事を目的とする。ナップートとはアラビア語で杖を指し、上エジプト人は祝祭の折にこの杖を用いて一対一の剣術の試合を行う。そこには実修者達のみならず共有されるイーミックなレベルでの身体観が存在し、その身体観を基とした身体技法が駆使され試合が展開されるのである。筆者は 3 年間に渡り現地において参与観察を行い、研究者のエティックな視点、および実修者のみが知りうるイーミックな視点の両視点からのナップートの分析を行っている。そしてそこでは、ナップートを包含する祭り全体という大きな枠組みから、ナップートの運営に関わる人々、またナップートの参加者、競技空間、伴奏など競技会を取り巻くさまざまな構成要素の分析もあわせて行われており、本研究は伝統スポーツナップートを巡る総合的な研究と位置づけられるであろう。

先行研究

現在に至るまでいくつかの研究にナップートあるいは類似した競技が紹介されているがその全てが紹介程度に留まっている。たとえば **Vandier d'Abbadie** は古代のスポーツの考察に際しナップートとの比較を試みているが考察はなされていない。ヘロドトスも紀元前 5 世紀頃の祝祭での棒を用いた競技を報告しているが、現在のナップートとの関係性は薄いと思われる。18 世紀や 19 世紀には **Niebuhr** や **Lane** が農民の棒を使った競技を紹介しており、競技の形態やそれを取り巻く環境の記述から、これらは現代の事例と密接な関係性があると思われるが、競技の考察は行われておらずその詳細は不明である。20 世紀に入ると **Blackman** や赤堀の報告がある。**Blackman** は上エジプト農村のエスノグラフィの中でナップートを紹介し、ナップートが喧嘩や抗争解決の武器として用いられる事を報告している。彼女の報告には格闘技の要素が垣間見られ興味深いが、残念ながら競技に関しての記述は見当たらない。また赤堀の報告では、身体遊戯として伝統的スポーツ・ナップートの概要が紹介されているに留まっている。以上のようにナップートや類似した競技等の研究はいくつか存在したが、膨大な民族誌の中の一部であったり、また当該地域のスポーツ文化全般を紹介するための概要報告であったり、その詳細について考察が試みられたケースは見当たらず、研究が待たれる状況である。

研究方法

2004 年～2006 年までの 3 年間の現地ケナー県 L 市クルナ村での参与考察を通して行われた。調査・研究方法は参与観察を中心に文化人類学的方法が用いられ現地での聞き取り

調査、ビデオ、カメラ等での映像、画像の記録が行われた。

考察

現在ナブトには、観光化という新たな外部から力が加わり、国際的スポーツの性格をも付与され始めている。伝統的文脈の中では暗黙の共通理解であったルールは、客観的で明確な判断基準に変わり、当該地域の文化文脈から離れた新しい形のナブトも生まれてきている。しかしながら、その一方でナブト実修者はこの競技を上エジプト地方の伝統文化として強く意識し、伝統的な競技会や競技スタイルを堅持しているのである。

彼らにとってこの伝統的な競技会は単なるスポーツイベントではない。彼らにとってイスラームという宗教文脈とは異なる、「地域」という枠のアイデンティティの形成を促し、いわゆる“上エジプト人”を構築するシステムとして機能しているのである。

本来ナブトはいわば土着の地域文化の一つであり、祭の中で宗教的な文脈には存在しないものである。しかし、実修者達はこの土着の文化に「聖者への奉納」という付加価値を与えた。それによって彼らはナブトに祭の中での「正当性」を付与する事に成功したのである。宗教的な価値を付与され、正当性を手に入れたナブトは、その地位を不動のものとした。そして、その一方で元来の宗教の文脈と関係ない存在であるがゆえにこの競技が発揮できる機能も維持し続けているといえる。それは宗教文脈とは離れた空間としての人々に直接的な再会を提供するという点である。

結論

宗教的な文脈とは異なる直接的な再会場として、当該地域の人々はこの競技を利用する。宗教的な文脈ではない直接的な人との出会い・再会によって、当該地域の人々は「地域」という枠の人間関係の確認、強化・再生産をする事が可能になるのである。つまり、当該地域でナブトを実修する人々はイスラームのアイデンティティを持つ一方で、彼らには「上エジプト人」という地域アイデンティティが宗教文脈とは別の層で存在し、その地域アイデンティティをナブトの競技会が強化し、再生産しているのである。